

# 葬祭流儀

長野  
VOL.1

そうさいりゅうぎ

定価 980円

## 「終活」大特集

人生の終焉を自分で決めて今を生きる

命をつなぐ絆  
葬儀の最新事情  
送りたい、送りたい  
感動のお葬式  
弔事の基本  
もしもの時の疑問解明Q&A  
お別れ会のフォーマル新提案  
新しい供養のカタチ  
長野県葬儀社ガイド

ハッピーエンディング対談  
リポーター 葬儀司会者  
東海林のり子さん×木野島光美さん  
流通ジャーナリスト 金子哲雄さんの「終活」

伝統を纏った、小さなローソク。

カメヤマ  
light up the Future



お祈りの時間も、それ以外の時間も。あなたの日常にやさやかな潤いをお届けしたくて。カメヤマは、五色芯の10分ローソクをご用意しました。お祈りに使いたい切ることまで消し忘れの心配も解消。いつも新たなローソクで、いつも新たな気持ちで火を灯すことができます。菊唐草の着物柄を配した筒箱は、和モダンな雑貨としてあなたの暮らしを、祈りを、美しく彩ってくれるでしょう。お求めは、全国の大手百貨店・仏壇仏具店にて。ミニ寸ローソクもカメヤマです。

亀山五色蠟燭 希望小売価格 1,260円  
合計約3,000円(本人各約600円)

いまなら菊唐草風呂敷付き!  
仏壇仏具店にて亀山五色蠟燭をお買い上げいただくと、もれなく菊唐草模様の風呂敷(不織布製)が付いてきます。  
サイズ: 55cm×55cm  
※数に限りがございます。ご了承ください。



カメヤマ株式会社 www.kameyama.co.jp TEL.(06)4798-9072(代) 本社:大阪 支店:札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡 営業所:新潟

定価 980円 (本体933円)

雑誌 81577-02



4910815770233  
00933

# 『平穏死』は実現できる

■長尾クリニック院長  
長尾 和宏さん  
Kazuhiro Nagao



医療法人裕和会 長尾クリニック  
〒兵庫県尼崎市昭和通7丁目242番地 ☎06-6412-9090  
http://www.nagaoclinic.or.jp/

## 自宅こそ最高の特別室

在宅療養に積極的に取り組まれてる長尾クリニックの長尾和宏院長は、かつて研修医時代に立ち会った数え切れないほどの『延命死』に疑念を抱いたと言います。

「終末期のがん患者さんが連日救急車で運ばれてくる救急病院でした。これ以上何をしても無駄だと知りながらも延命措置を繰り返す中で、人は死ぬとき、なぜここまで苦しまなくてはならないのか、医者が余計なことをするから苦しむんじゃないかと感じ、自分がやっていることは何か違うぞという思いが強くなりました」

長尾先生は緩和医療、終末期医療こそライフワークと考えるようになり、延命にこだわる勤務医を退き、36歳で兵庫県尼崎市に開業。地域の患者さんの在宅医療をスタートさせます。

「聴診器も当てずに薬を出すような医者ではなく、人を診る。町医者でありたいと思っています。最期ま

## 医療・介護・葬儀までを具体的に思い描いて準備する

「平穏死」が迎えられるということ、多くの方に知ってもらいたいです」

### 「看取り」の法律への誤解

長尾先生いわく、患者さんとご家族に『平穏死』や『在宅看取り』への理解を得ることは、それほど難しいことではないそうです。けれども、なぜ病院信仰という、死の外注化が当たり前となり、在宅や施設で最期を迎えることを怖がる医療スタッフ・介護スタッフが多いのか。そこには『在宅看取り』警察沙汰と誤解している医師や葬祭関係者が多いことに原因があるとも言います。

「悲しみの中にも充足感を見出したお看取りのあとで、葬儀社の方やお坊さんに『どうして自宅で死んだんですか！』『今どき、珍しいですね』など、心ないひと言でご家族の

方が傷つけられることも頻繁にあります。また、ある施設では入所者が亡くなるたびに警察を呼び、呼ばれた警察も困惑したり、呼吸停止で呼ばれた救急車が遺体を乗せて走り回るなど、トラブルが絶えません。日本では、24時間以内に診察していれば、医師は死亡に立ち会わなくても死亡診断書が発行できるというおぼろかな看取りを保証する医師法20条が昭和24年に制定されています。これを、24時間以内に診察していなければ死亡診断書を発行できない、すなわち警察に届けなければならぬと誤解しているがゆえに、警察沙汰問題が起きているのです」

去る7月25日の国会中継で『平穏死議論』が行われ、辻泰弘副大臣により、医師法20条が正しく理解されるよう、法律の解釈通知を出す意向が示されました。長尾先生がかねてから指摘していた『在宅看取り』に

で食べたい物が食べられて、好きなことができる自由こそが、人間の尊厳ではないでしょうか。自宅であればこれらの自由はたいい叶えられます。これまでに在宅で看取らせていただいた500人を超える患者さんのほぼ全員が『平穏死』です。病院から自宅に戻ったというだけで、症状が落ち着くケースも多く、亡くな

る数日前まで旅行に行ったり、趣味を楽しまれる方もいらっしゃいます。胃ろうを造られ、入院中は食事ができなかった患者さんが、自宅へ帰ってきたら久々に水を飲み、食事がとれたという経験も少なくありません。どこで最期を迎えるかをきちんと考え、元気なうちから準備しておくことで、本人も家族も満足でき

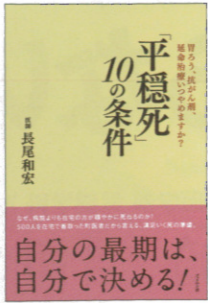


長尾クリニック院長  
長尾 和宏さん  
1958年香川県善通寺市生まれ。医学博士。東京医科大学卒業後、大阪大学第二内科に入局。1995年に兵庫県尼崎市にて長尾クリニック開業。複数医師による365日年中無休の外来診療と24時間体制での在宅医療に従事。

関わる誤解やトラブルの減少にも繋がることを期待されます。「今後、政策としても地域医療が鍵を握っています。生活の場での医療・介護・葬儀の連携がきちんと取れば、尊厳を持って地域で終末期を迎えられます。また、私の患者さんの中には、葬儀関連をすべて自身で決め、支払いまで済ませて、すっきりした面持ちの方もいらっしゃいます。最期を迎えるための準備を具体的に、家族も強くいられるのです。自分の最期を自分で決めるためにも、地域の医療・介護・葬儀の情報収集に努めることをお勧めします」

町医者として日々駆け回っている長尾先生ならではの体験談やメッセージは、ブログ、ツイッター、講演会、さらに新刊『胃ろう、抗がん剤、延命治療いつやめますか？』『平穏死』10の条件』でも紹介されています。

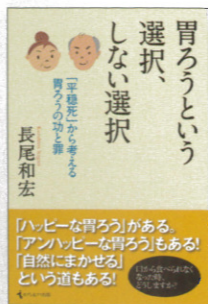
長尾 和宏さんの著書



『胃ろう、抗がん剤、延命治療いつやめますか？「平穏死」10の条件』ブックマン社（定価1400円）

これまでに10万部を突破。アマゾンでもベストセラーランキング最高4位を獲得するほどの人気。

＜ブックカバーより＞  
平穏死とはその言葉の通り、平穏に最期を迎えるということです。自然に穏やかにあの世へ旅立っていく。死を先延ばしにする延命治療を受けないという選択肢もある。しかし現実には、不治かつ末期の状態でも延命治療が行われ、よけいに苦しむ場合が多い。どうすれば平穏死できるのか？ 全て本音で話します。



『胃ろうという選択、しない選択』平穏死から考える胃ろうの功と罪 セブン&アイ出版（定価1575円）

### 私の『エンディングノート』

- ※人生最後に食べたいもの(最後の晩餐)  
マクロミルの寿司
- ※人生最後に行きたいところ  
ハワイ
- ※天国に持っていききたいもの  
サザンオールスターズのCD
- ※天国で会いたい人  
●父親  
●空海  
●南方熊楠
- ※生まれ変わったらなりた職業  
歌手

### 医師法第20条※

医師は、自ら診察しないで治療をし、若しくは診断書若しくは処方せんを交付し、自ら出産に立ち会わないで出生証明書若しくは死産証書を交付し、又は自ら検案をしないで検案書を交付してはならない。但し、診療中の患者が受診後24時間以内に死亡した場合に交付する死亡診断書については、この限りでない。

るので、ご自身の終末期について考える上で参考にしてみてはいかがでしょうか。